

39. 「豊水」の好適モデル作成のための樹体要因の解明

福島県果樹試験場栽培部・平成9～11年度試験研究成績書参考文献

1. 部門名 果樹－ナシ－形態・生育相 分類コード04－03－05000000

2. 担当者 齋藤義雄・佐藤 守

3. 要 旨

日本ナシ「豊水」の生産性(収量、一果重)、果実品質(RM示度、果形等)、腋花芽分化率に及ぼす樹体要因の影響について検討し、生産性の高い主枝の特徴及び指標を解明した。

(1) 収量を高めるための樹体要因

主枝分岐部から先端部の側枝までの部分(結果部)の側枝数を多くするほど、収量は増加するが、果実品質に悪影響を及ぼさないためには、側枝間隔を両側で35cmとする。

(2) 整形果割合を高めるための樹体要因

①主枝分岐部から先端部の側枝までの長さ(結果部長)を主枝長の80%以上とする。②垂主枝を養成中の主枝では、側枝を垂主枝に多く配置する。ただし、不順天候年(冷夏年)では、枝が混み合うと糖度の低下をもたらすので、側枝配置に留意する。

(3) 一果重を大きくするための樹体要因

①垂主枝を養成中の主枝では、側枝を垂主枝に多く配置する。②側枝数に対する予備枝数を40～60%とする。③主枝及び垂主枝の新梢を早めの新梢管理(芽かき等)で整理する。これは不順天候年では糖度向上にも効果がある。④満開後45日以降に側枝から発生する新梢は、夏期せん定などで整理しない。ただし、不順天候時には糖度の低下をもたらすので、満開後45日までに側枝基部(側枝分岐部から40cmの範囲)の新梢を摘芯する。

(4) 腋花芽分化率を高めるための樹体要因

①主枝及び垂主枝の新梢を早めの新梢管理(芽かき等)で整理する。②不順天候年では長果枝中心の側枝利用とせず、短果枝を適宜利用する。